

令和6年度 事業報告書

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

1. 会議の開催

(1)総会 令和6年5月24日(金) 会議室B 出席者 57名

・令和6年度の議案書(昨年度実績と本年度事業計画)について提案のとおり承認された。

・基調講演

「三重大学における地域共創活動の現状と今後について」三重大学 加藤 貴也 准教授

・鈴鹿高専教員による話題提供

「研究に関する話題のご提供」機械工学科 末次 正寛 教授

「黒田研究室における企業等との共同研究事例のご紹介」材料工学科 黒田 大介 教授

「電磁探傷技術と共同研究事例のご紹介」電気電子工学科 橋本 良介 准教授

総会終了後、青峰会館・軽食堂にて懇親会を行った。参加者 48名

(2)理事会 令和6年4月23日(火) 15:00～ 事務・教養棟 2F 会議室B 出席者 15名

① 令和6年度 通常総会議案書(案)について

② 年度毎の事業経費の推移(設立時～令和6年度)について

③ 年間活動日程について

2. 事業の実施

(1)会員企業との共同研究等による研究協力の推進

1)共同研究・受託研究への支援

会員企業からの共同研究費(間接経費10%-30%を含めた研究費)の20%を担当教職員に寄附金として助成する。ただし1件20万円を上限とする。

○共同研究:7件 ※会計処理は10月

・エイベックス株式会社(板谷准教授他2名) 1,800,000円(200,000円助成)

・東京化成工業株式会社(高倉教授他3名) 1,800,000円(200,000円助成)

・ミズノテクニクス株式会社(末次教授他2名) 900,000円(180,000円助成)

・株式会社 MonotaRO(平井教授) 1,800,000円(200,000円助成)

・CKD株式会社(黒田教授) 831,000円(166,200円助成)

・一般社団法人抗菌製品技術協議会(兼松特命教授) 500,000円(100,000円助成)

・株式会社荏原風力機械(近藤教授) 822,800円(164,560円助成)

○受託研究:0件

※助成金総計:1,210,760円 (R6年度予算額:100万円)

2)会員企業の技術相談に関する助成

[支援内容:同様な内容の技術相談が1年以内に2回以上に及ぶ会員企業からの相談料は、2回目以降も無料とし、相談担当の高専教職員に寄附金として助成する。]

○技術相談:7件

・住友電装株式会社 南部智憲教授(1回実施) 助成 0円

・オキツモ株式会社 南部智憲教授(1回実施) 助成 0円

- ・ 三重金属工業株式会社 万谷義和教授(1 回実施) 助成 0 円
 - ・ 株式会社ディ・アンド・ディ 兼松秀行特命教授(1 回実施) 助成 0 円
 - ・ 住友電装株式会社 南部智憲教授(1 回実施) 助成 0 円
 - ※本年度 2 回目ですが、別部署、別相談内容のため、新規扱い
 - ・ 光機械製作所 黒田大介教授(1 回実施) 助成 0 円
 - ・ ホルグワナ・モルシステムズ・ジャパン株式会社 黒田大介教授(2 回実施)
- 助成 13,500 円

※助成金総計：13,500 円 (R6 年度予算額：約 7 万円)

3) 会員企業の研究設備利用

〔優遇制度：通常使用料から 30%減額にて適用される。〕

○企業会員の研究設備利用：5 件 (三重県工業研究所、住友電装株式会社)

4) 会員企業との共同研究等推進に関する助成

〔ランチャイムミーティング等により、企業会員と共同研究等における新たな研究テーマの創出ができた場合の研究推進費として支援する。〕

○企業会員との共同研究等における研究推進：1 件

- ・ ダイソウ工業株式会社 共同研究契約締結
- 遠藤健太助教 助成 400,000 円

※助成金総計：400,000 円 (R6 年度予算額：40 万円)

5) ランチャイムミーティングによる取組み

〔共同研究等における鈴鹿高専との研究推進を目的として支援する。〕

○企業会員とのランチャイムミーティング実施：1 件

- ・ 旭ダイヤモンド工業株式会社 和田憲幸教授



企業交流会の様子

(2) 産学官の人的、情報交流の促進

企業交流会・・・[令和 6 年 12 月 18 日(水)開催] 出席者 86 名

- ① 今年度の事業進捗状況報告
- ② 企業会員紹介 株式会社 MonotaRO 商品開発部門
PB 戦略グループ 松田 健二 氏
「株式会社 MonotaRO の企業紹介」
- ③ 高専教員からの話題提供 1 電子情報工学科 遠藤 健太 助教
「AE 波形計測によるプレス加工時の異常検知と工場 DX 化の取り組み」
- ④ 専攻科 1 年生のポスター発表会に参加
- ⑤ 高専教員からの話題提供 2 生物応用化学科 高倉 克人 教授
「東京化成工業株式会社との産学連携研究紹介-フロー合成を基盤にした有機合成条件最適化装置の開発-」
- ⑥ 4 年創造工学発表

⑦ 懇親会 (青峰会館) 出席者 74 名 ※支出総計：63,091 円(R6 年度予算額：6 万円)

(3) 会員企業の技術向上に関する支援

1) 企業技術者対象の講習会の実施

会員企業株式会社 FIXER 様提供により生成 AI について基礎から学ぶ講座を開催。学生と共に会員企業技術者も参加。会員受講 9 名（オンライン含む）

※支出総額計： 0 円(R6 年度予算額：20 万円)

2) 会員企業見学会の実施・・・[10 月 31 日（木）午後実施]

・見学先：豊田合成日乃出株式会社（三重県四日市市）

参加者：11 名

※レンタカー、手土産、ガソリン 24,085 円

(R6 年度予算額：5 万円)



会員企業見学会の様子

3) 鈴鹿高専教員の企業訪問による『出前講座』の実施

・令和6年度実績なし。

4) 講演会及びメール等による会員企業向けの情報提供

・令和6年度学内教育研究推進費(校長裁量経費)研究成果報告会〔3月24日実施〕出席者 4名

・鈴鹿高専せれんでクラブ講演会〔3月14日実施〕機械工学科 長谷川 賢二 講師

「初代星形成シミュレーション」出席者 13 名

・鈴鹿医療科学大学との医工連携研究会

第 16 回 SUMS-NITS 医工連携研究会〔10 月 17 日(木)開催〕

第 17 回 SUMS-NITS 医工連携研究会〔3 月 5 日(水)開催〕

・航空業界 News 等メール配信

(4) 人財確保の支援、会員企業 PR 等

1) 「企業ガイドブック 2024」の作成と学生への配布

・9 月 6 日(金)に会員企業あてメール通知

・11 月 13 日(水)実施の合同業界説明会前に本科第 3 学年・第 4 学年、専攻科 1 年次に配布

※会員企業 129 社掲載 530 部発行 542,190 円 (R6 年度予算額：約 64 万円)

2) 合同業界説明会での会員企業紹介〔11 月 13 日実施〕

・9 月 6 日(金)に会員企業あてメール通知

応募 114 社、抽選にて 100 社へ参加案内

・第 3 学年の参加希望者、学科第 4 学年、専攻科 1 年次を対象として開催

・100 社参加（2 部制で第 1 部、第 2 部とも 50 社参加）

・ブース形式による実施で会員企業の皆様がポスター掲示に

よる説明、ノートPC上での説明、工場等で製作されている製品展示(小型なものに限る)など、各企業の特徴を生かしたもので開催された。



合同業界説明会の様子

- ・過去の参加会員企業： H29 31 社、H30 49 社、R1 62 社、R2 中止、R3 60 社、R4 64 社、
R5 88 社、R6 100 社

※会場設営費助成 1,500,000 円（R6 年度予算：約 130 万円）

3) 高専祭での会員企業展示

- ・11月2日(土)、3日(日)に開催された高専祭で、学科展示の会場である第2体育館にデジタルサイネージの設置と、企業ガイドブックの企業ページのポスター掲示を行い、会員企業の紹介を行った。併せて桑原 CD による個別相談も実施した。

※R6 年度予算額：100,000 円（R6 年度予算：15 万円）



高専祭企業ポスター掲示

4) 鈴鹿市ものづくり企業フェアでの活動紹介

鈴鹿市よりフェア中止連絡があり、参加していない。

5) 企業会員の情報共有における企業取組み発信

- ・企業会員間における技術的交流を促進するため、ホームページ上に各企業の業種等の情報を継続して掲載している。（企業会員のみが閲覧可能）

6) 高専卒業生の転職、Uターン就職希望者

- ・三重県労働局との打合せにより、法に抵触しない状態で活動を継続中である。
- ・鈴鹿高専テクノプラザホームページ上に「鈴鹿高専テクノプラザ：人材確保の支援(会員企業と鈴鹿高専生やOB 転職者希望者の輪を活かし即戦力人材の確保へ繋がります。)」として掲載している。
- ・青峰同窓会報 2024 版(R6 年 10 月発行)に「鈴鹿高専は皆さんの U ターンを支援しています」と掲載。
- ・本年度より IUJ ターンホームページの会員企業情報入力を開始した。

7) 高専 OB による知的シルバー人材活用

- ・本校卒業生による知的シルバー人材について、本年度 1 名を会員企業に紹介し、契約に至った。
- ・自治体と連携し、教育機関向けに出前講座等を行った。

8) 銘板の更新

鈴鹿高専を支援頂く企業会員、特別会員、個人会員を本校の教職員や学生に紹介し、来校者に PR を行い入会を推進した。
入退会会員銘板はその都度更新した。



テクノプラザ企業会員等の銘板

(5) 高専の教育、国際交流の充実および学生との交流の促進

1) 高専の技術者教育〔令和6年7月11日(木)〕開催

- ・7月11日(木)「高専の技術者教育に関する支援」に関し、招待講演実施の助成
オハイオ州立大学 Patrick Sours 教授

※講師謝金 35,000 円 (R6 年度予算額：約 10 万円)

2) 高専祭学科展示作品の審査と優秀作品の表彰

- ・企業交流会(12月18日開催)で4年生創造工学の各学科優秀作品を発表し、交流会参加者による投票で得票の最も多かった学科に最優秀賞を与える。

※支出総額計：50,000 円 (R6 年度予算額：25,000 円)

3) 学生海外派遣支援

- ・R6年度は高専機構本部からの補助充実に伴い、支援を行わなかった。

※支出総額計：0 円 (R6 予算額：100,000 円 (50,000 円×学生2名))

4) 会員企業による授業支援

1. 専攻科1年次における後期授業(木曜日7-8限目)の「グローバル・リーダー論」を人材育成の観点から支援している。
2. 企業人材育成講座「生成AI講座」(全15回)
株式会社 FIXER 様に協力頂き、最新の生成AIについて基礎から学ぶ講座を開催。
学生からの人気も高く、定員を上回る応募があり好評であった。

5) スタートアップ教育環境整備事業支援

鈴鹿高専起業家工房の運営費に対して補助を行った。設置済みの機器消耗品購入や指導学生への謝金等に使用され、鈴鹿高専のアントレプレナーシップ教育に寄与した。

※支出総額計：500,000 円 (R6 年度予算額：500,000 円)

(6) 企業会員、個人会員増強

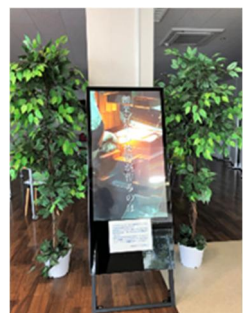
- (1) 本年度目標は185社、最終200社を目指し、継続的に鈴鹿高専コーディネーターを中心に会員企業増強に努める。

(R6 年度予算額(CD 雇用経費)：160 万円)

- (2) 個人会員については、青峰同窓会会報等によるPR活動を行っている。

(7) その他

- ・10月にデジタルサイネージの新規追加・更新を行い、令和5年度87社から令和6年度に102社の動画掲載となった。なお、電子情報工学科棟1階、生物応用化学科棟1階、マルテチメディア棟1階の3箇所に設置されている。
- ・鈴鹿高専が行うスタートアップ教育環境整備事業に対して支援を行った。
- ・本校卒業生に向けたIUJターンポータルWebページを作成とそれに伴う管理機能の強化を行った。



3. 会員企業への就職学生数について

- 平成 25 年度：会員企業 7 社に 11 名
(機械工学科：2 名、電子情報工学科：2 名、生物応用化学科：3 名、材料工学科：4 名)
- 平成 26 年度：会員企業 6 社に 7 名
(電気電子工学科：1 名、生物応用化学科：2 名、材料工学科：4 名)
- 平成 27 年度：会員企業 4 社に 10 名
(機械工学科：1 名、電気電子工学科：2 名、生物応用化学科：3 名、材料工学科：3 名、
電子機械工学専攻：1 名)
- 平成 28 年度：会員企業 9 社に 17 名
(機械工学科：4 名、電気電子工学科：2 名、電子情報工学科：1 名、生物応用化学科：2 名、
材料工学科：8 名)
- 平成 29 年度：会員企業 9 社に 15 名
(機械工学科：5 名、電気電子工学科：2 名、電子情報工学科：0 名、生物応用化学科：4 名、
材料工学科：4 名)
- 平成 30 年度：会員企業 10 社に 14 名
(機械工学科：3 名、電気電子工学科：0 名、電子情報工学科：0 名、生物応用化学科：7 名、
材料工学科：3 名、応用物質工学専攻：1 名)
- 令和元年度：会員企業 16 社に 18 名
(機械工学科：0 名、電気電子工学科：2 名、電子情報工学科：1 名、生物応用化学科：5 名、
材料工学科：7 名、応用物質工学専攻：3 名)
- 令和 2 年度：会員企業 16 社に 26 名
(機械工学科：6 名、電気電子工学科：5 名、電子情報工学科：2 名、生物応用化学科：5 名、
材料工学科：7 名、総合イノベーション工学専攻：1 名)
- 令和 3 年度：会員企業 15 社に 27 名
(機械工学科：8 名、電気電子工学科：4 名、電子情報工学科：1 名、生物応用化学科：4 名、
材料工学科：5 名、総合イノベーション工学専攻：5 名)
- 令和 4 年度：会員企業 21 社に 36 名
(機械工学科：7 名、電気電子工学科：8 名、電子情報工学科：8 名、生物応用化学科：3 名、
材料工学科：5 名、総合イノベーション工学専攻：5 名)
- 令和 5 年度：会員企業 15 社に 31 名
(機械工学科：8 名、電気電子工学科：5 名、電子情報工学科：3 名、生物応用化学科：1 名、
材料工学科：10 名、総合イノベーション工学専攻：4 名)
- 令和 6 年度：会員企業 16 社に 34 名
(機械工学科：8 名、電気電子工学科：5 名、電子情報工学科：1 名、生物応用化学科：3 名、
材料工学科：8 名、総合イノベーション工学専攻：9 名)

4. 会員数の推移について

	企業会員	個人会員	特別会員	退会企業
平成 25 年 設立総会(3 月)	27 社	2 名	2 団体	一社
平成 26 年度 総会(5 月末)	47	4	8	8
平成 27 年度 総会(5 月末)	50	4	9	1
平成 28 年度 総会(5 月末)	58	6	10	3
平成 29 年度 総会(5 月中旬)	63	6	11	1
平成 30 年度 総会(5 月末)	94	9	12	1
令和元年度 総会(4 月末)	116	15	12	3
令和 2 年度 総会(4 月末)	128	18	13	6
令和 3 年度 総会(3 月末)	147	18	13	2
令和 4 年度 総会(3 月末)	154	20	15	8
令和 5 年度 総会(3 月末)	170	20	16	13
令和 6 年度 総会(3 月末)	178	21	16	5
令和 7 年度 総会(3 月末)	182	21	15	17